

「地域発 元気づくり大賞」 贈呈式

地域	佐久	上伊那	北安曇
事業名	岩村田商店街が提供する若者の働く機会を醸成する事業	伊那発！完全地産・製造業ご当地お土産プロジェクト地域活性化推進事業	信濃の国 原始感覚美術祭2013と 原始感覚の里プロジェクト
団体名	岩村田本町商店街 振興組合 (佐久市)	伊那発！製造業ご当地 お土産プロジェクトチーム (伊那市)	原始感覚美術祭 実行委員会 (大町市)
事業概要	不登校・ひきこもりなど支援が必要な若者を対象に就業支援講座(ビジネスマナー、パソコン実務)や基礎学力講座を実施したほか、商店街で実施するさまざまなイベントへの参加、販売実習などの就業体験の場を提供することにより、若者の自立支援のための取組を進めた。	設計から製品の梱包まで、工程のすべてを地域内で行う完全地産の「ご当地お土産品」として、高遠城址公園の桜をテーマとした「光るサクラコマ」、伊那市イメージキャラのプラモデル「とことこイーナちゃん」の2品を開発することにより、新産業の創出による地域経済の活性化、障がい者等の雇用促進を図った。	食生態学者・探検家である故西丸震哉氏の「原始感覚」をテーマとし、国内・海外アーティストの木崎湖畔での作品の滞在製作や著名人による対談等のイベントを開催し、教育・文化の振興を図るとともに、約1か月にわたり原始感覚美術祭を開催することにより、特色ある観光地づくりの取組を進めた。
事業費	2,283,000円	5,541,530円	3,090,808円
支援金額	1,826,000円	3,440,000円	2,190,000円
主な選定理由	<p>・商店街の資源や人材を活かした取組を地域ぐるみで実施した。各種講座には363名の子どもたちが参加し、子どもたちの「自信」や「自立」の形成につながった。</p> <p>・小・中・高校(通信制含む)に事業の趣旨を説明し、特別支援クラスに在籍する生徒を中心に、受講生の募集を行うなど、<u>近隣の学校と連携した取組が進められた。</u></p>	<p>・地元業者と住民が協働し、工程のすべてを地域内で行う中で、組立の一部を障がい者就労施設で行うことで、<u>障がい者等の就労支援につながった。</u></p> <p>・土産品開発を通じて開催されたワークショップは、<u>小中高生がものづくりや地元で働く意義について考える機会</u>となったほか、商店街の店主との意見交換は、<u>新しい街・地域づくりのあり方などを考える場</u>となった。</p>	<p>・美術祭期間中の観客数は<u>8,492人</u>となり、<u>着実に認知度も向上している。</u>来場者アンケートによれば約8割が「来年も参加したい」と回答するなど、好評の意見が多かった。</p> <p>・アーティストと地元住民(子どもたちなど)が作品を共同製作するなど、<u>地域との連携を大切に</u>した取組が進められており、今後一層、地域に根付いたイベントとしての発展が期待できる。</p>

岩村田商店街が提供する若者の働く機会を醸成する事業

取組に至る背景・事業の目的

- 不登校、ひきこもり、発達障がいなど様々な問題を抱え、活躍の場が制限されている又は制限している若者が増加している。
- 商店街という社会資源を十分に活用して地域と連携しながら、様々な困難を抱える若者たちに学ぶ場と「働く」「参加する」機会を与えることで自信をつけさせ、自立に導くよう支援を行う。



【実社会を意識したビジネスマナー講座】

事業内容

- 支援が必要な若者向けの各種講座を実施
- 特別支援クラスに在籍する生徒をはじめとした小中校生向けの前期、後期それぞれ 10 回の「基礎学力講座」を開催
 - 「就業支援のための基本講座」を開催し、高校生等向けにビジネスマナーやパソコン実務などを指導
 - 高校生が商店街イベントの企画実務まで携わる「イベント実践講座」を開催



【祇園祭での販売実習】

事業効果

- 各種講座には延べ 363 人の子ども達が参加し、特に小中学生では、学校に行けず自宅にひきこもっていた生徒や特別支援クラスの在籍生徒など、いろいろな事情のある生徒に対しそれまでの世界では考えられなかったステージを与えることができた。
- ビジネスマナーやパソコン操作を習得する中で、子ども達にも少しずつ社会の中で生きることの実感を持ってもらえた。
- 当初は自分を出すことをためらっていた子どもたちが、商店街のイベントへの参加や就業体験を通して様々な大人と関わり合う中で自分に自信が持てるようになった。
- 本事業は、「第4回キャリア教育アワード」において経済産業大臣賞及び大賞を受賞しモデル的な事例として全国的に発信された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 子ども達が1か所でも、1回でも「できる」という気持ちを持ち、自信が持てるよう誘導しながら指導にあたった。
- 学力が個々に異なる子ども達に対して、専用のソフトを導入して独自のカリキュラムを作成した。
- 今回構築した就業支援プログラムをさらに発展させる形で、「自立」と「社会で生きられる力」を醸成できるプログラムに進化させたい。
- 商店街という社会環境を活かし地域で子どもを育てることにより活性化につながるだけでなく、「地域を愛する子ども」を育てていきたい。

【選定のポイント】

- ・商店街の資源や人材を活かした取組を地域ぐるみで実施した。各種講座には 363 名の子どもたちが参加し、子どもたちの「自信」や「自立」の形成につながった。
- ・小・中・高校（通信制含む）に事業の趣旨を説明し、特別支援クラスに在籍する生徒を中心に、受講生の募集を行うなど、近隣の学校と連携した取組が進められた。

団体名 岩村田本町商店街振興組合（佐久市）
 ホームページ
<http://www.iwamura.com/shop/terakoyajuku/>
 メールアドレス terakoyajuku@iwamura.com

事業タイプ	ソフト事業
事業費	2, 283, 000円
支援金額	1, 826, 000円

伊那発！完全地産・製造業ご当地お土産プロジェクト 地域活性化推進事業

取組に至る背景・事業の目的

上伊那地域の経済をけん引する製造業は地域産業を支える源泉であり、雇用を生み出す原動力を担っている。しかしながら産業のグローバル化や長引く不況等から海外シフトが進み、産業の空洞化という深刻な事態が発生するなど、製造業を取り巻く環境は増々厳しくなっている。

また、このような状況は、若者や障がい者の雇用の場の縮小を余儀なくし、地域経済全体の衰退にも直結してしまう。

こうした地域課題を打開するために、「地域で新たに仕事を作る」ことを目的に、伊那にちなんだ「お土産」を伊那の製造業者、社会福祉団体、商工団体等地域のものづくりに関わる人々の手で「完全地産」の理念によって新たに作り上げる「製造業ご当地お土産プロジェクト」の活動を行うこととした。



【とことこイーナちゃん (写真大)
と光るサクラコマ (写真小)】

事業内容

伊那谷の魅力を発信する土産品として、高遠城跡公園の桜をテーマとした「光るサクラコマ」の試作品製作と、伊那市のイメージキャラクター「イーナちゃん」をテーマに自ら歩く「とことこイーナちゃん」の開発及び金型の製作を行った。

市民と連携しご当地お土産とまちづくり、ものづくりを考えるワークショップの開催。(15回開催、延参加者 198名)

小学生にもものづくりの大切さと地元で働くことの意義を教えるワークショップの開催。(2回開催、延参加者 41名)

また、全国で活躍するものづくり専門家を招いて「製造業ご当地お土産プロジェクトシンポジウム」を開催した。(参加者 97名)

製品の組立て・梱包の一部を障害者就労施設で行い、障がい者等の就労支援と施設の利用率向上を図った。



【ご当地お土産シンポジウム】

事業効果

「光るサクラコマ」と「とことこイーナちゃん」を作る過程で、子どもからお年寄りまで多くの市民と協働し、ものづくりの面白さや地域で働くことの意義等を広め、地域活性化に繋げることが出来た。

全国にアピールできる伊那のお土産を具体的に形にすることで、伊那といえば「完全地産!」、「製造業ご当地お土産プロジェクトのまち」として「ものづくり伊那」の地域ブランドの創出と地域住民の郷土愛を醸成した。

また、シンポジウムやワークショップを通して、ものづくりの未来を担う子ども達に夢を与え、障がい者や若者の就業支援や起業マインドの向上をさせることで、「地域」が元気になるきっかけとなり、市民の誇りと絆を高めることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ご当地お土産プロジェクトの強みは、地域内で最終製品を作り上げることが出来る点である。新しいアイデアを迅速にカタチにすることができ、今後も地域住民と連携して「ご当地お土産」を作ることができる環境を持続させることで、新産業の基盤を強固なものとし、さらなる雇用の創出と地域活性化を目指して行く。

【選定のポイント】

- ・地元業者と住民が協働し、工程のすべてを地域内で行う中で、組立の一部を障がい者就労施設で行うことで、障がい者等の就労支援につながった。
- ・土産品開発を通じて開催されたワークショップは、小中高生がものづくりや地元で働く意義について考える機会となったほか、商店街の店主との意見交換は、新しい街・地域づくりのあり方などを考える場となった。

団体名	伊那発！製造業ご当地お土産プロジェクトチーム (伊那市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
ホームページ	http://kanzenchisan.com/	事業費	5,541,530円
		支援金額	3,440,000円

原始感覚美術祭 2013 と原始感覚の里プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

- エネルギー問題等、地球環境との付き合い方について見直すべき時代。食生態学者、探検家の西丸震哉氏の原始感覚の普及の意志に基づき、大町で大自然と共に暮らす人々の中に受け継がれる叡智と自然と共生する素晴らしさを地元自身が再認識し、発信していく。
- 作家および地元住民、行政が一体となり美術祭を開催し、地域文化の振興を図るとともに、縄文遺跡が残る木崎湖畔の美しい景観を生かした新しい原始の里の創造を目指す。

事業内容

『信濃の国原始感覚美術祭 2013—水のまればと』
(H25年8月3日～9月8日)

- 原始感覚をテーマに大町市木崎湖畔で作家による滞在制作やワークショップ、公演、イベント等を行う美術祭を開催し、「木崎湖×アート×原始感覚の里」を発信した。
 - 国内外から公募により参加した芸術家が湖畔の景観に合ったここでしか生まれえない常設作品等を制作した。
 - 作品展示やイベント等、運営に数多くのボランティアが協力し多くの人と一緒に『祭り』をつくることができた。
- <滞在制作と講演等>



【キム・ヨンミン「Songs of the Lake」】

田島征三、水川千春、浅井裕介、パクボンギ、香川大介、アンドレアハックル、キムヨンミン、やまなみ工房作品、シルパジヨグルカー、榎野文平、杉原信幸、茂木健一郎、関野吉晴・田ロランディ対談、朝崎郁恵、スパンコスモ、タテタカコライブ、戦争絨毯展、青島左門、本郷毅史 他

事業効果

- 作家の滞在制作や市民や作家を結び付ける催しを開催することで、より地域との絆を深め、市内外から訪れた人等、より多くの人を結びつける美術祭となった。
- 市教育委員会と共催することで、市内の小中学校とワークショップを行う等、子どもたちが参加することで、地域文化教育に貢献することができた。
- 4年間の美術祭の効果が地元にも浸透し、食と観光研究会によるアートディレクター北川フラム氏を講師に迎えた町おこし勉強会が開始され、瀬戸内国際芸術祭の視察や、北川フラム氏コーディネート「信濃大町食とアートの廻廊」開催に繋がる機運を高めた。
- 美術祭延べ観客数 H24年度延べ6,600人→H25年度延べ8,492人（前年比28%増）
木崎湖地区民宿の宿泊数前年比50人増

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

初めて参加作家を公募したことにより、木崎湖の風土を新鮮な感覚で表現し、大きく可能性の幅を広げることができた。作家と寝食を共にした美術祭サポーターの『湖畔隊』には、夏の一時だけ現れる湖の家族のような一体感が生まれた。稲刈りを手伝うなど、「スタッフ、作家、地元の方の距離が近く、とても楽しかった」という声が多く、今後もより充実した運営体制を構築していくとともに、「信濃大町 食とアートの廻廊」とも連携し、より多くの人が大町を知り、愛し、そこに住むような地域づくりと美術祭を行いたい。

【選定のポイント】

- ・美術祭期間中の観客数は8,492人となり、着実に認知度も向上している。来場者アンケートによれば約8割が「来年も参加したい」と回答するなど、好評の意見が多かった。
- ・アーティストと地元住民（子どもたちなど）が作品を共同制作するなど、地域との連携を大切にしたい取組が進められており、今後一層、地域に根付いたイベントとしての発展が期待できる。

団体名 原始感覚美術祭実行委員会（大町市）	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ	事業費	3,090,808円
http://primitive-sense-art.nishimarkan.com/	支援金額	2,190,000円